

第8回学習会「フォーラム・子どもたちの未来のために」

戦時下の紙芝居

1930年に、街頭紙芝居として誕生した紙芝居は、当時子どもたちの娯楽でした。しかし、日本が戦争につき進む中、その内容を変え、戦意高揚のために演じられていくようになっていきます。

1942年に刊行された『軍神の母』は1年間に1850万人が観たと言われています。国策紙芝居を演じながら、紙芝居がなぜ悪用されたのかを考えたいと思います。

講師：**酒井京子**（童心社会長・紙芝居文化の会代表）

日時：2018年3月9日（金）18:00～20:00

場所：童心社ホール（東京都文京区千石4丁目6-6）

会費：1,000円



『軍神の母』

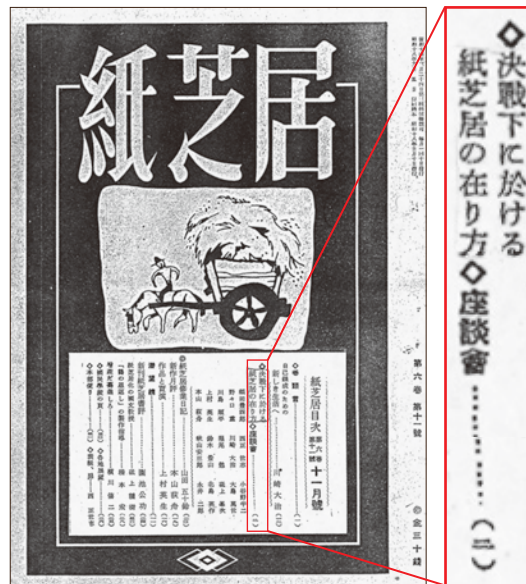
脚本／鈴木紀子

絵／野々口重

製作／日本教育紙芝居協会

発行／日本教育画劇株式会社

1942年



雑誌『紙芝居』表紙
1943年10月刊



『玉碎軍神部隊』

陸軍省報道部推薦

情報局委嘱作品

脚本／北島英作

絵／西 正世志

製作／日本教育紙芝居協会

1943年

○次回の予告

第9回学習会(仮題)「いわさきちひろが描いた戦争と子ども」講師：松本猛、2018年夏(日時・会場は未定)

主催：「フォーラム子どもたちの未来のために」実行委員会

絵本学会、絵本作家・画家の会、童話著作者の会、日本国際児童図書評議会

日本児童図書出版協会、日本児童文学者協会、日本ペンクラブ「子どもの本」委員会

○お申し込みは上記各団体、もしくは以下問い合わせ先へお願いします。

日本児童図書出版協会 /Mail:kodomo@kodomo.gr.jp TEL 03-3267-3791 FAX 03-3267-5389